

特集：2015年「音の日」

第2回「学生制作する音楽録音コンテスト」報告

日本オーディオ協会音の日委員会副委員長

穴澤 健明

2014年に日本オーディオ協会主催の第1回「学生制作する音楽録音コンテスト」が開催し、ご好評をいただくと共に、審査委員諸氏をはじめ多くの方々から2015年の開催を希望する声が出された。これを受けて2015年の第2回「学生制作する音楽録音コンテスト」を開催したのでその概要を以下に報告する。

1. はじめに

オーディオでは良いコンテンツが揃うことを誰しも望んでいるが、そのためには国内外の録音技術者教育・音響技術者教育の充実が図られなければならない。「学生制作する音楽録音作品コンテスト」は、国内外の録音技術者教育・音響技術者教育と切っても切れない関係がある。日本オーディオ協会では、1991年にこの録音技術者教育・音響技術者教育の問題に取り組み、JASジャーナルに多くの記事が掲載されるなどの成果を残した。

最近になって録音技術に関する周辺状況に大きな変化が訪れている。一昔前にはかなり大がかりな設備を要した「録音」は、最近の小型高性能のデジタル録音機器の普及発展により、専門の技術教育を受けていない学生や若者たちでも比較的容易に高音質の録音が実施できる。

その一方、音楽の内容や企画意図に留意しない録音も散見される。

このような状況に鑑み日本オーディオ協会はオーディオ文化を広め健全な「音楽録音」と「再生音楽」の発展を期待し学生制作する音楽作品録音コンテストを実施することとした。日本オーディオ協会では1990年代半ばよりオーディオの普及推進を目指して今年22回を数えるまでに至った日本プロ音楽録音賞、数年後に残念ながら中止となったアマチュアの録音コンテストなどが実施された。このアマチュアの録音コンテストを引き継ぎ再興したのが「学生制作する音楽作品録音コンテスト」である。

以上の経過を経て、一般社団法人日本オーディオ協会では、一昨年 第1回「学生制作する音楽作品録音コンテスト」に引き続き昨年も開催した。

2. 第2回「学生制作する音楽録音作品コンテスト」の概要

第2回「学生制作する音楽録音コンテスト」は、一般社団法人日本オーディオ協会主催でAES (Audio Engineering Society) 日本学生支部の共催、ソニー株式会社、ティアック株式会社、株式会社ヤマハミュージックジャパンの協賛、AES 日本支部の協力を得て開催した。このコンテストの募集要項と審査委員長及び審査委員を資料1に示す。応募申し込み対象については、学生の卒業制作などを考慮し2014年1月1日以降に制作された作品とし、2015年9月25日に応募の受付を開始し、応募締め切り日を2015年11月13日とした。

本コンテストでは優秀作品(複数)を表彰し記念品を贈呈することとした。審査委員長並びに審査委員には、前回お世話になったの方々を中心に資料1に示すの方々をお願いした。

資料 1. 募集要項 (審査委員長及び審査委員を含む)

募集要項

- (1) コンテストの名称：“学生の制作する音楽録音作品コンテスト”
- (2) 主催：一般社団法人日本オーディオ協会
 共催：Audio Engineering Society 日本学生支部
 協賛：ソニー株式会社、ティアック株式会社、株式会社ヤマハミュージックジャパン
 協力：Audio Engineering Society 日本支部
- (3) コンテスト概要
 応募要項に示す形で応募された作品について、千葉 精一氏を審査委員長とする専門家からなる審査委員会にて厳格な審査を行い、2015年度「音の日」(12月4日(金)目黒雅叙園にて開催予定)にて優秀作品を発表し作者の努力を表彰するものである。
- (4) 応募資格：「音楽録音に興味を持つ学生の個人またはグループ」(高校以上の学生)
- (5) 応募期間等
 ・受付開始日：2015年9月25日(金)
 ・応募締切日：2015年11月13日(金)必着
 ・応募作品条件：2014年1月1日以降制作かつ他コンテストに未応募のものに限定。
 この制作期間であれば卒業制作作品等在学中に作成された卒業生の作品も応募可
- (6) 提出書類
 ① 応募申込み用紙
 ② 録音制作企画書
- (7) 審査員構成 (敬称略)
- | | | |
|---------|-------|--------------------------------|
| ・審査委員長： | 千葉 精一 | 日本オーディオ協会 |
| ・審査委員： | 亀川 徹 | 東京芸術大学 音楽学部 |
| | 長江 和哉 | 名古屋芸術大学 音楽学部 |
| | 馬場哲夫 | 尚美学園大学 芸術情報学部 |
| | 我妻 拓 | 日本工学院専門学校 |
| | 深田 晃 | dream window inc. |
| | 中村 寛 | Audio Engineering Society 日本支部 |
| | 高松 重治 | 日本オーディオ協会 |
- (8) 表彰内容
 ・優秀作品(複数)を表彰。(賞状と記念品を贈呈)
 ・シンポジウムへの参加、並びに“音の日のつどい”パーティー招待

本コンテストの応募用紙と制作企画書記入用紙を資料2に示す。制作企画書については企画力の備わった録音制作者及び録音技術者を養成することを目的としたコンテストであることから、その基礎能力の判定を行うため執筆を依頼した。

資料2 本コンテストの応募用紙と応募時に必要な制作企画書記入用紙

応募申込用紙

- (1) 制作作品名
- (2) 代表者氏名/学校・所属団体名：
 - ・ グループ構成員氏名/学校・所属団体名
 - ・ 連絡先
- (3) 著作権処理：
 - ・ 著作権処理の必要性： 必要 / 不要
 - ・ 必要な許諾の入手先名：
 - ・ 許諾入手処理： 済 / 未処理
- (4) 提出物/提出予定日：
 - 録音制作企画書： 月 日
 - 提出録音音源： 月 日
 - CD-R ディスク
 - USB メモリー

録音制作企画書

- (1) 本作品の企画意図
- (2) 本作品の内容
- (3) 作品内容概要：
 - ・ 作曲（あるいは編曲）内容説明
 - ・ 演奏者（グループ）
 - ・ 作品のチャンネル数（サラウンド作品の場合は要チャンネルアサイン表）
- (4) 演奏編成およびマイクセッティング（楽器、設定、ポジション）
- (5) 録音会場：
 - ・ 会場名
 - ・ 広さ（ホールの場合客席数。スタジオ等の場合は凡その床面積、天井高など）
- (6) モニター環境：
 - ・ 使用録音機材一覧
- (7) ミキシング環境（録音後の編集やトラックダウンで使用了した場合）
 - ・ モニター環境
 - ・ 使用機材など
- (8) 録音で意図し設定した音場の設定と音像定位設定の詳細
- (9) 当初の意図通りの成果が得られた点
- (10) 当初の意図が得られなかった点と今後の改善策
- (11) その他録音に対する特記事項など

3. 応募作品と審査方法

応募期間中に 16 作品の応募があった。その応募者の内訳は、録音技術系の専門学校生 6 名、国内音楽大学生 9 名、海外音楽大学生 1 名であった。残念ながら第 1 回のコンテストでは応募のあった一般大学からの応募は第 2 回のコンテストではなかった。この 16 作品のうち、11 作品は 2 チャンネルステレオ作品で、5 作品が 5.1 チャンネル (4 チャンネルも含む) のサラウンド音楽作品であった。この 16 作品について、11 月 25 日夜の東京藝術大学と 11 月 27 日午後の尚美学園大学との計 2 回の審査会を開催し、審査委員全員による厳正な試聴及び審査を行っていただいた。

審査は、それぞれの応募作品について前回同様全審査委員に評価点 (100 点満点) をつけていただいた。その内訳は、企画力 (企画書の出来他 20 点満点)、応募作品の音楽性 (30 点満点)、録音技術力 (50 点満点) とした。その後審査委員全員の得点集計を行った。2 チャンネルステレオ作品とサラウンド音楽作品での評点は、音楽性において差がほとんどなかったものの、企画力と録音技術力でサラウンド音楽作品が 2 チャンネルステレオの評価点を上回った。これは 2 チャンネルステレオよりもサラウンド音楽作品の方が、新規性のある制作企画書が書きやすく、技術力の訴求も容易であったためと思われる。この結果から 2 チャンネルステレオ作品とサラウンド音楽作品を一律に評価することには問題があることが判明したため、全体の集計だけでなく、それぞれ別の部門別の得点集計も行った。

以上の経過を経て、審査委員の合意により次項に示す四名の応募作品の受賞を決定した。

4. 第 2 回 「学生の制作する音楽録音作品コンテスト」受賞作品

本コンテストの審査結果は、2015 年 12 月 4 日に目黒雅叙園で開催された「学生の制作する音楽録音作品コンテスト」の授賞式&シンポジウムで発表され、4 名の制作した作品が受賞した。授賞式後には、審査委員と受賞者が参加して受賞作品を聴きつつ意見交換を行うシンポジウムが開催された。受賞者、受賞作品、シンポジウムで出た審査委員のコメントを列記すると以下ようになる。

■ 最優秀賞：蓮尾 美沙希 (ハスオ ミサキ) さん

・東京芸術大学 音楽学部 音楽環境創造科 学部 4 年

・作品： 「Deep Sea」 5.1ch 48kHz/24bit

・作品の狙い： 本作は、楽曲全編でチェロのみを使用した多重録音作品です。楽器本来の響きやアンサンブルを重視しながら、通常の演奏では聞こえづらい特殊奏法等を録音・ミキシングを通して聞こえるようにすることで、コンサートでは実現しづらい多彩な音色を持つ楽曲になるよう制作しました。また 5.1ch サラウンドによって、深い海の底、音の渦に囲まれているような重厚感の演出を試みています。

・評価結果： この作品は 100 点満点中 81.25 点と他の応募作品に比較し圧倒的に高い評点を得て、最優秀賞となった。

・審査委員よりの主要コメント：

創造性豊かな作品となっていて感心した。題材としてよく練られていた。リアの扱いも含めサラウンドをよく研究していて非常に効果的に作られていた。演奏者がそこにいる実在感を感じさせるとより引き込まれる作品になるのではないかと思う。

■ 企画制作賞：高柳 欽也（タカヤナギ キンヤ）さん

- ・ 洗足学園音楽大学 音楽・音響デザインコース 録音専攻 4年
- ・ 作品： 「煌めきと明日」 5.1ch 96kHz/24bit
- ・ 作品の狙い： 聴いている人がまるで自分の周りで実際に演奏されているかのような臨場感のある作品を目指しました。同時演奏、1発録り、演奏での音楽的バランスなど色々なことに挑戦し、出音で音楽的な作品をなるべくそのまま音源にしようと努力しました。
- ・ 評価結果： この作品は、100点満点中77点と全体で第2位の高得点を獲得し、特に企画力の点で高い評価を受けたため企画制作賞を受賞した。
- ・ 審査委員よりの主要コメント：
企画が面白く、オリジナリティもあった。5本のマイクが意外に全体の雰囲気をつ捉えている。今後さらに洗練されたサウンドにするための新しい手法を見つけて欲しい。

■ 録音技術賞：廣木 翼（ヒロキ ツバサ）さん

- ・ 尚美学園大学 芸術情報学部 情報表現学科 4年 音響フィールド
- ・ 作品： 「大逆転の虹」 2ch 44.1kHz/16bit
- ・ 作品の狙い： 「rabbit youth riot (ラビット ユース ライオット)」が個人の技術向上や楽曲作りに集中していた修行期間を終え、新たなサウンドの曲として作られたため、曲の伝えたいこと、音色や雰囲気に加え、彼らの今までの音楽との違いを出せることをテーマに企画しました。特にドラムの音色がこれまでと大きく変わったため、鳴っている音を素直にかつクリアに聞かせられるよう工夫しました。
- ・ 評価結果： この作品は、100点満点中72点を獲得し、2チャンネルステレオ部門で1位であった。特に録音技術力で高い評価を得たため録音技術賞を受賞した。
- ・ 審査委員よりの主要コメント：
バンドの特徴をよく捉えた録音だと思う。ミックスのバランスもよく綺麗にまとまっていた。企画書が丁寧に良く書かれており良かった。
尚、廣木 翼さんは欠かせない用があり授賞式とシンポジウムを欠席されました。

■ 音楽作品賞：世利 輝（セリ ヒカル）さん

- ・ 日本工学院専門学校 レコーディングクリエイター科 1年
- ・ 作品： 「スクランブル」 2ch 44.1kHz/16bit
- ・ 作品の狙い： まだ一年生なので、ピアノとヴォーカルのみというシンプルな構成でアコースティックピアノの音の豊かさとヴォーカルの暖かみを最大限に引き出すことを目的としました。
- ・ 評価結果： この作品は、100点満点中69点を獲得し、2チャンネルステレオ部門で2位となった。特に音楽性の評価において30点満点中24点という高得点を獲得し、音楽作品賞を受賞した。
- ・ 審査委員よりの主要コメント：
終盤のヴォーカルが素晴らしく、聴き終わった後の感動につながっていると思う。録音手法を記載しただけの制作企画書であったため今後の改善を要する。

5. おわりに

前回も感じたことであるが、折角学生や先生方がサラウンド音楽に熱心に取り組み、良い作品を制作しながら、再生環境が一般的に整っているとは言えない状況にある。本年のコンテストでも5作品の応募があり、すぐれた作品もありながら、その作品の再生される環境が、大学内のスタジオ等に限られており、サラウンドにおいて日本オーディオ協会を中心としてオーディオ業界の更なる訴求活動が望まれる。

今回も審査委員の方々をはじめ多くの方々のご協力により本コンテストを無事終えることができ、紙面を借り謝意を表す。

終わりに本コンテストの更なる発展を期待する次第である。



最優秀賞を受賞し、挨拶する蓮尾氏



受賞した蓮尾氏、高柳氏、世利氏（左から）



受賞者と審査委員によるシンポジウムの様子